

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 6 日付

京畿道漣川郡野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出  
(野生いのしし 60-62 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1169920&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は1月4日京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョンゴン)民間制限線中で発見された3体の野生いのしし死体から ASF ウイルスが検出されたと1月6日明らかにした。

漣川郡(ヨンチョンゴン)旺澄面(ワンジンミョン)の死体2個体は軍部隊搜索作業中、山で発見され、新西面(シンソミョン)の弊社体1個体は山で農業従事者によって発見された。

漣川郡(ヨンチョンゴン)は ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体処理を行った。

国立環境科学院は1月5日それぞれの死体から ASF ウイルスが検出されたことを関係機関に通知した。これで漣川(ヨンチョン)で24件の野生いのししの ASF 確定診断となり、全国的には62件になった。

最先頭環境部野生動物疾病管理チーム長は"今回の弊社体は全部広域フェンスの中で発見されたが、旺澄面(ワンジンミョン)弊社体は2次フェンスが設置されていないところで発見された"として、"迅速にフェンスを設置して搜索を強化する"と話した。

以上